

2007 年6 月29日

株式会社三井住友銀行 頭取
奥 正之 様

社団法人 日本建築家協会 (JIA)
関東甲信越支部 支部長 伊平則夫
同保存問題委員会 委員長 川上恵一
同中央地域会 代表 杉浦英一

旧日本相互銀行本店の保存活用に関する要望書

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

貴社におかれましては、当会の活動に積極的にご支援を賜り、深く感謝致します。

東京駅八重洲口にはほど近い呉服橋交差点に面して建つ、貴社所有の「旧日本相互銀行本店」(1952年竣工)は、ご高承のように、前川國男の設計による戦後期日本の代表的な建築です。1952年度の日本建築学会賞を受賞し、2003年には、日本を代表するモダニズム建築100選(DOCOMOMO100選)にも選定されております。

前川國男の功績のひとつに、日本におけるモダニズム建築の技術的諸課題の克服に寄与したことがあげられます。なかでも、本建築の技術的特徴は、資材統制の終了という時代背景の中で、建築の軽量化を図ることにより、銀行本店として要求されるオフィス機能に適した空間構成の獲得に成功したこと、及び建築要素の工場生産化を広範な分野で試み、わが国建築界の未開拓分野へ果敢に道を切り開いたことにあると考えられます。

当時の高層建築は耐震壁を持つ、鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)造による重厚な建築でした。本建築は上層階において、柱・梁の骨組みだけの純ラーメンと呼ばれる構造方式を鉄骨の全溶接工法で計画し、床スラブと柱と階段のみからなる明快な建築構成を、9層という高層のスケールで実現しています。また、柱を外壁面より内側に配置する手法を取り入れ、3~7階の事務室の外壁をアルミサッシュとアルミパネルの組み合わせにより構成し、モダニズム建築の特徴的な意匠である横連窓とそれによる開放的な空間を実現しています。そうした数々の技術的手法により、当時の一般的な構造方式の40%の重量にまで構造体の軽量化を達成し、低層階において、SRC造の柱梁で支えられた無柱空間の銀行室を生み出すことに成功しました。また、最上階の8、9階はオーディトリウムの大空間とするなど、巧みな構造計画が活かされています。

近年、大都市のモダニズム建築が失われていくにつれ、歴史を刻んだ、生きた実在としての建築の尊さを痛感せずにはいられません。本建築は旧来の銀行建築の重厚さの呪縛から離れ、機能に立脚した「オフィスビルとしての建築」の規範となった高層建築であります。同時に、永代通りに面する窓の開き勝手を、奇数階と偶数階で交互に入れ替えるなど、合理的な考え方の中にも人間味の感じられる姿を持った建築でもあります。

ぜひとも「旧日本相互銀行本店」のもつ歴史的・建築的な価値を継承して頂きたい、ここにご高配をお願い申し上げます。なお、私共日本建築家協会(JIA)関東甲信越支部、同保存問題委員会および同中央地域会は、保存活用の実現のためできる限りのご協力をさせていただきます。所存であることを申し添えます。

敬具